

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700081		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	松阪市垣鼻町1638-15		
自己評価作成日	平成21年9月15日	評価結果市町村提出日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 10 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街中にある閑静な住宅街に位置し小中学校・高校がすぐ近くにあり、地域から孤立せず住み慣れた環境で過ごす事が出来る様に心がけている。敷地内に農園や花壇を設置し花や野菜と一緒に作り、土に触れゆったりとしたペースで過ごせる環境作りをしている。職員も家庭的で温かな雰囲気を大切に利用者様がゆったりと過ごせるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高校・中学・小学校・幼稚園・保育園を直ぐ近くに有する旧市街地の文教地区に位置している。広い敷地内にはなごやか農園(四季折々の農作物や花々が植えられている)があり、日々の収穫は利用者の楽しみごとになっている。木の温もりのある明るい建物はデイサービス・小規模多機能型居宅介護施設が併設され、恵まれた環境の事業所である。地域福祉に熱意を持って取り組んでいる経験豊かな看護師でもある施設長のもと管理者・職員みんなで作成した理念『なじみの…ご家族…やさしく…かていてき…』を共有し、利用者一人ひとりが穏かでのんびりと暮らせるように支援している。近隣の神社や幼稚園の夕涼み会など地域へ出かけることも多い。また多くの職員が施設周辺の清掃奉仕活動に参加するなど地域密着型を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、小規模多機能ホームの職員と意見を出し合い、なごやか全体の理念として作成。家族や面会の方とも共有していただけるように、居間の目に付きやすい場所に掲示し、職員は毎朝唱和し地域密着という事を日々意識付けしている。	併設の小規模多機能ホームの職員と一緒に意見を出し合いなごやか全体の理念として『なじみ…ご家族…やさしく…家庭的で…』を作成し誰でも目に付きやすい場所に掲示し、利用者や家族とも共有している。ミーティングも兼ねた毎朝の申し送り時に唱和し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の清掃活動(草抜き・清掃時)に参加している。また地域のゴミ収集場の掃除を利用者と一緒に行ったり、地域の回覧板も利用者と一緒回している。地域の行事(保育園の夕涼み会や神社のお祭り)にも積極的に参加し地域の一員として接点を持つようしている。	事業所自体が地域の一員であると考え自治会にも加入し、回覧板を利用者と一緒持っていくたり、地域の行事にも積極的に参加している。また日常的に散歩時の挨拶や通学の学生や園児などの交流もある。多くの職員が施設周辺の清掃奉仕活動も行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の地域けあネット(資源マップづくり)に参加したり、認知症の方と地域に出て行き認知症に対する理解を深めるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組み等について報告し、頂いた意見についてはサービス向上に向けて検討し、取り組みを次回の会議で報告している。	多くの地区関係者・医療機関・松阪市介護高齢課・地域包括・利用者代表の方々が出席し、事業報告や意見交換がおこなわれ、地域と施設を『つなぐ』ことが目的と話し合われた。そこでの意見をサービス向上に活かしている。年6回開催予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度開かれるグループホーム部会において、市の担当職員と現状や今後の取り組みについて意見交換を行っている。また、困難事例や権利擁護の方等に相談し連絡を密にしている。電話・市役所に更新手続きで出向いた際、情報を提供し、協力関係を築くようしている。	毎月開催される松阪市グループホーム部会に出席し、市の担当職員と意見交換を行なっている。また施設のイベント時にも参加してもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束への共有意識を深めている。常に意識付けが出来る様に禁止事項を職員が見やすいところに貼っている。玄関は施錠せずに、出て行こうとされるときは、止める事なくさりげなく一緒について歩いたりしている。	身体拘束委員会を設置し、定期的に身体拘束・言葉の拘束について勉強会を開催している。全職員、玄関の施錠を含めて拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、日々職員同士で振り返りの時を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見の勉強会を開き、職員に理解を深めている。必要と思われる方については説明を行いどこに行けばよいかなどのアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族の要望を聞き、不安を抱えない様にゆっくりと説明している。一回の説明で不十分な時には、面会時や電話等で遠慮なく聞いて頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やアンケートを実施し、頂いた意見については検討し報告し実行している。面会時などには、職員から話しかけ家族が話しやすい雰囲気作りを心掛けている。玄関に苦情・相談箱を設置している。	サービスや食事についてアンケート調査を実施し、そこから出た意見や要望を運営に反映させている。家族会(年3回予定)を開催し、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の意見や提案が聞きやすい雰囲気作りに努め、ミーティング等で取り上げケアに反映できるように心がけている。また、月に一回会議で上司にも職員の意見を聞いてもらう場を設けている。	施設長・管理者は職員会議や毎朝のミーティング時に職員からの意見を聞くようにしている。また職員が意見・要望を出しやすいように職員用の意見箱(職員通用入り口に)を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人からの悩みや相談があれば管理者はすぐに対応し、困難な場合については早急に上司に報告をして面会の機会を設けている。行事などは全員で参加し、やりがいや向上心を持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内で研修を行い、受講後は伝達講習や回覧にて閲覧できるようにしている。チェックリストを独自に作成し、個々の目標設定を決める等、働きながらトレーニングできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に交替で参加したり、法人内のグループホームと交流をしてサービスの質の向上に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思いや不安を打ち明けられるような雰囲気作りを心掛け、本人の思いに傾聴し共感を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼が得られるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、必要に応じ他機関にサービスを繋げる対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として一緒に掃除や料理をしていただき、ホームでの役割を大切にしている。地域にある神社でのお祭りや夕涼み会等と一緒に参加し、共に時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を一番に大切に、共に考え本人と支え合う「関係作り」に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望される懐かしい場所に行ったり、行きつけの美容院に行く等、個々の人間関係や今までの生活習慣を大切にしている。	併設の小規模多機能型居宅介護施設を利用されている知人の訪問を支援したり、家族(息子)の宿泊を支援して家族との絆を大切にしている。また行きつけの美容院などの馴染みの人や場所との関係がとぎれないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に気配りし孤立する事のないよう職員が間に入り関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた際には今までの情報を提供している。また顔を合わす事等あれば声かけし、家族とも関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族より思いや希望を聞き、出来るだけ思いに応えるよう工夫している。	ゆっくりとしたい方・居室で食事をとりたい方など利用者一人ひとりの希望や意向が記載された共有シートを作成して、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方がして頂ける様、家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人一人の生活リズムや一日の過ごし方の把握に努め、昼食後の昼寝をする人には声を掛け休んでもらっている。朝夕の申し送り等で、心身状態・現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、入居前のケアマネ、介護員等にも思いや意見を聞き、それぞれの意見等を反映し現状に即した介護計画を作成している。	利用者1名～2名の方に職員1人の担当制をとっている。利用者や家族・関係者に意見を聞き現状に即した介護計画を定期的を作成している。状態に変化のあった時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子を記録し、職員間で情報を共有し、援助計画や介護計画を実践し見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況ニーズに柔軟に対応し、枠に捉われないサービスの実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(近隣の薬局、ボランティア、施設周辺の住民)に支えられながら、入居者が安全で豊かな暮らしをして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医としている。しかし変更にあつては本人や家族の希望に応じている。また、協力医との関係も大切にしなが情報交換している。かかりつけ医の変更にあつては、本人や家族が納得し安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	基本的には利用者・家族の希望のかかりつけ医であるが、協力医との関係も大切にしなが適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを大切に、情報を看護師に伝えたり協力医に報告し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した事はないが退院後に入居した際には、家族と病院関係者と十分に話し合い情報交換しながら、協力医へも十分な情報提供を行い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に終末期のケアは契約等にはうたっていない。病状が悪化する予測のある方については早い段階から家族と話し合い、協力医とも連携をとり支援している。	開設間もない事業所である。現時点ではグループホームなごやかとしての重度化や終末期に向けた方針はないが、早い段階から家族と話し合い協力医とも連携を取り、家族が困らないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や急変時のマニュアルの勉強会を行って、すぐに対応できるようにしている。また、職員全員が救命講習を受け実践に向けた取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難経路、避難経路の再確認、消火器の取り扱いの訓練を6、7月に実施した。また、9月には夜間想定避難訓練をする予定。災害についても地域と共に取り組めるよう自治会に働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保・消火器の使用方の訓練を行なっている。	利用者一人ひとりの状態を踏まえて昼夜を問わず避難方法を検討し、地域の方々から協力を得られるように日頃から話し合い、また事業所が地域の高齢者の避難場所として協力できることを自治会などに伝え、地域と助け合う関係づくりが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、無理強いせず誇りを傷付けないさりげないケアを心掛けている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考えて、無理強いしないケアを心がけている。言葉や語調がその人の誇りやプライバシーを傷つけることが無いように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添いゆっくりと話し掛け、思いを発することが難しい利用者に対しては、表情を読み取って利用者を決めてもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気持ちを尊重し、一人一人のペースを大切に、本人の希望に沿った個別対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれをしていただけるよう、化粧品を一緒に買いに行ったり服と一緒に選ぶなどしている。また、季節やその場に合った服装が出来るように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなどを手伝ってもらっている。利用者と一緒に収穫した野菜をメニューに取り入れ、調理方法を聞いたり好みを取り入れている。	オープンキッチンである。匂いや音などで五感を刺激し食事が楽しみなものになるように工夫している。なごやか農園で収穫した季節の野菜もメニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスを考え調理している。食事・水分量についてはチェック表を活用し一日の必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを、声掛けや見守りで行い、出来ない方は職員がケアを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、一人一人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けでトイレに誘導している。パットの使用を減らし、トイレでの排泄を大切にしている。	利用者一人ひとりの排泄習慣を把握し、さりげない声かけをして、トイレでの排泄に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。認知症と排便の関係や便秘の及ぼす影響等を日々話し合っている。また、水分の補給や牛乳、食事(根菜類)の摂取等で調整し個別に適度な運動を習慣づけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう、時間や曜日を固定せずにその利用者のペースに合わせている。	時間や曜日を決めず利用者一人ひとりのペースにあわせ、入浴が楽しめるように支援している。希望があれば毎日でも入浴が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や、その時々状態に合わせて話しをしたり、テレビを見たりして安心して心地よく眠りにつけるよう配慮している。休息については本人のリズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事チェック表に個人別服薬表を入れ、一人一人の薬について職員が周知している。また、個人ファイルに個人別服薬表を入れ、薬品名や副作用について職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かし、役割分担をしてもらいながら、職員は教わり実践する機会を作り、生きる張りや楽しみなどを支援している。畑の水やりや洗い物、庭掃きを一緒にしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に朝・夕は散歩に出かけ、利用者の行ってみたい場所や懐かしい場所にも個別に出かけている。歩行困難な利用者も車椅子を使用し戸外に出かけられるようにしている。	天気のよい日には一人ひとりのその日の希望に添って、施設の周囲を散歩したり、お弁当を持って季節の花見や小旅行・外食・買い物など日常的に外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は、家族の了解を得て持って頂くようにしている。一人ひとりの希望に応じ、預かり金より買い物に行ったりしている。家族には毎月、預かり金明細票と領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残暑見舞いや手紙を出す支援を行い、家族が遠く離れた場所に住んでおりなかなか会えない方には、手紙に写真を添えて日常の様子が十分に分かるようにしている。電話がかかってきた場合は、座ってゆっくりと話しをしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日天窗や窓を開放し、外の光や空気を取り入れている。中庭はソファーから見渡せ、季節の花を植え季節を感じてもらえるようにしている。	共有空間の明るい大きな窓から見渡せる中庭には季節の花が咲いており、四季が体感できる。建物は木の温もりがあり、天窗からの自然の光や風は優しく、少し離れた場所に和室もある。ゆったりと居心地良く過ごせる工夫が随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファーを設置し、食堂には人数分の椅子を常時設置している。また、食堂から離れた所に和室があり、一緒に洗濯物を畳んだり、冬にはこたつを設置し一緒に足を伸ばしてくつろげる場所を用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前の本人の生活環境を重視し、なじみの家具や家族の写真を飾り、安心した生活が送れるように配慮している。	広い居室には清潔な洗面台が設置してある。読書の好きな方には読書しやすい工夫をしている。家族が泊まれることもあり、本人や家族が居心地良く過ごせるような配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には名前がわかりやすいように、低い位置に表札を付けるようにしている。ベッドの使い方がわからず危険とおもわれる方には布団と畳を敷き安全に生活できるようにしている。		